

2016年7月29日

(ご参考)

マツダ株式会社
2017年3月期 第1四半期 決算説明会
(スピーチ要旨)

常務執行役員 財務担当 企画担当補佐
藤本 哲也

1. 総括

2017年3月期第1四半期のグローバル販売台数は対前年1%増の37万5千台と過去最高の販売実績となりました。

財務実績は、売上高は7,762億円、営業利益は524億円、当期純利益は212億円となりました。

商品面では、新型CX-9を北米に、新型CX-4を中国に導入し、ともに順調な滑り出しです。

2017年3月期通期見通しのグローバル販売台数は155万台、営業利益は1,700億円、当期純利益は1,150億円と、期初公表を据え置きます。

足元の主要国での経済環境変化に伴う自動車需要への影響や、為替などの金融市場の変動を慎重に見極める必要があることから、グローバル販売台数および財務指標ともに期初公表を据え置きます。新世代車両運動制御技術の第一弾を搭載したアクセラを市場投入し、販売モメンタムを加速させていきます。

2. 2017年3月期 第1四半期実績

グローバル販売台数は前年に対し1%増の37万5千台となりました。

グローバルで販売が本格化したCX-3、新型MX-5/ロードスターの台数貢献に加えて、中国ではMazda3が販売を牽引しました。

地域別では、日本、北米で台数が減少する一方で、欧州、中国、その他市場での台数が増加し、前年を上回る販売実績となりました。

各マーケットの販売状況について説明します。

日本では、対前年31%減の3万9千台の販売実績、登録車シェアは対前年2.8ポイント減少の4.2%となりました。これは、前年に導入したデミオ、CX-3の新型車効果の一巡によるものです。

新世代車両運動制御技術「スカイアクティブ ビークル ダイナミクス」の第一弾である「Gベクタリングコントロール」を搭載したアクセラを発表し、7月より販売を開始しています。

北米では、対前年2%減の11万3千台の販売となりました。

このうち米国では、前年同水準となる8万1千台です。セダン系車種の販売環境が依然として厳しいものの、CX-3や新型MX-5の台数貢献に加え、5月に市場投入を開始した新型CX-9の順調な滑り出しによるものです。

メキシコでは、為替対応などにより販売環境が悪化し、対前年16%減の1万1千台となりました。

欧州では、対前年22%増の6万6千台となりました。CX-3および新型MX-5の好調な販売が台数増加に貢献しました。ロシアを除く欧州では、需要の伸びを大幅に上回り、対前年25%増の6万1千台となりました。このうちドイツでは、対前年17%増の1万6千台、英国では、対前年4%増の9千台と堅調に台数を伸ばしています。

中国では、対前年3%増の5万9千台の販売となりました。6月より本格的に市場投入した新型CX-4の好調な販売に加え、小型車減税政策の恩恵もあり、Mazda3が販売を牽引しました。また、CX-5の商品改良モデルも引き続き販売増加に貢献しています。

その他市場では、対前年14%増の9万8千台の販売となりました。

オーストラリアでは、対前年8%増の3万1千台を販売し、シェアは9.8%を達成しています。CX-3、CX-5はいずれもセグメント別での引き続き、販売台数1位を獲得しました。

タイでは、対前年16%増、ベトナムでは、対前年86%増と、ASEAN全体では、対前年20%増となりました。その他の市場では、ニュージーランド、サウジアラビアなどの地域で、過去最高の販売台数を達成しています。

第1四半期の財務実績について説明します。

売上高は、対前年4%減の7,762億円となりました。営業利益は524億円と、前年同期に対し9億円の減少、また、経常利益は449億円、税引前利益は394億円、当期純利益は212億円となりました。為替レートは平均で1ドル108円、1ユーロ122円と、前年に比べドルで13円の円高、ユーロで12円の円高です。

連結営業利益の前年に対する減少額9億円の主な要因について説明します。

台数・構成では、新型CX-9などによる収益性の向上により、113億円の改善となりました。

為替は、USDで47億円、ユーロで54億円、その他主要通貨で238億円悪化し、合計で339億円の悪化です。

変動コスト領域では、コスト改善の進捗により143億円改善しました。

販売費用では25億円改善し、その他固定費領域では49億円の改善となりました。

3. 2017年3月期 通期見通し

2017年3月期の通期見通しについては、冒頭申し上げた通り、グローバル販売台数、財務指標とも据え置きます。

自動車需要への影響や金融市場の動向等、マクロ経済への影響を慎重に見極めたうえで、修正が必要と判断された場合は、速やかにご報告申し上げます。

4. 主要施策の進捗状況

SKYACTIV商品群の拡充と継続的進化では、新型CX-9を北米に、新型CX-4を中国に導入しました。ともに順調な滑り出しとなっています。

また、アクセラを大幅改良しました。このアクセラには、新世代車両運動制御技術「スカイアクティブ ビークル ダイナミクス」の第一弾である「G-ベクタリング コントロール」を搭載しました。

7月より日本市場に投入し、販売を開始しました。アクセラに続き、順次、「人間中心の開発哲学」に基づいた次世代技術を先取りし、あらゆる領域を深化させた商品改良モデルを市場投入することで、販売やブランドの強化を継続していきます。

グローバル生産体制の再構築では、防府工場でのCX-3生産準備など、生産効率の最大化に向けた取り組みが順調に進捗しています。

グローバルアライアンス領域では、新たにいすゞ社製の次世代ピックアップトラックのOEM供給で合意しました。

また、財務領域では、新規劣後特約付ローンによる資金調達および既存劣後特約付ローンの期限前弁済を実施しました。

通期の業績見通しにつきましては、国内外の経済動向や為替相場の変動など事業環境の変化を慎重に見極める必要があることから、期初公表を据え置きます。

足元の為替による業績影響に対しては、さらなるコスト改善活動や固定費の抑制などの取り組みを強化していきます。

不透明な事業環境ではありますが、開発・販売・生産・財務の各領域でのビジネスの質的成長とブランド価値向上への取り組みを加速していきます。

以上